不思議な形の巨石と岩絵の巨人の謎

地球物語

－岩は柔らかかった－



アメリカ　アーチーズ国立公園 【足】

S．フミヒロ　／　シロキ　カヨコ　共著

ソラと星出版

『大昔に空からひらりひらりと、まるでクラゲのようにとても柔らかな、山のように巨大で、それでいて意識のあるモノが地球に降りてきた』

ソラと星出版

地球物語

－岩は柔らかかった－

S.フミヒロ　／　シロキカヨコ共著

目次

はじめに　……　1
第1章　地球物語　……　2
第2章　射手座から降りたモノ　……　6
第3章　不思議な巨石　……　10
第4章　原子の変化　……　28
第5章　岩絵や地上絵　……　36
まとめ　……　48
付録(細胞の意識)、最後に　……　49

はじめに

「かつて山や岩がやわらかな生き物だった」と言われたら、あなたはどのように思われますか？

きっと、そんな事ありえない！と思われるでしょう。けれども誰もその様子を見たことはないので、絶対そんな事はありえない、とは言い切れませんね。なぜなら、長い年月の間に動物や森全体が化石になったりしていますから。

　これまでは、岩は地球が冷えた時に固まって、そのときから岩はずっと硬いと思われてきました。ところが、私たちは１９９８年に『大昔に空からひらりひらりと、まるで風船のようにとても柔らかな、山のように巨大で、それでいて意識のあるモノが地球に降りてきた』という情報を知りました。そしてその意識のある柔らかなモノは、人間の形をした大きな巨人をお腹に入れて連れてきたとも知らされました。

　柔らかなモノは、連れてきた大きな巨人に自分達が地球に降りてきた事を後々まで知らせるために、柔らかな自分の身体をいろいろな形に作らせました。そして、それらが長い年月の間に完全に固まって不思議な形の岩として残り、そのことを伝える岩絵が描かれたようです。それで、私達はこの情報を「地球物語」としてまとめて、それを裏付けるものを探し出してこの本を作りました。

第1章　地球物語



ずっとずっと大昔、地球はまだどろどろに溶けた真っ赤な鉄の塊で、宇宙をウロウロとただよい他の星たちに迷惑がられていました。それで“宇宙の大元”は何とか地球を希望の星にしようと、一番古い射手座の星に相談しました。射手座のモノは地球がかわいそうに思い、自分達で助けてあげようと思いました。

宇宙に星はたくさんありましたが、人間のような形はなくイシキだけで皆であーでもない、こーでもないと論争するだけでした。それで宇宙の大元は地球を三次元の世界にして、いろいろな形があらわれるようにしようと思いました。そのことを聞いて射手座のモノたちは、自分達が行けば地球も助かるし、イシキだけの世界に飽き飽きしていたので喜んで地球に行こうと思いました。どのようにして地球に降りていくか、いろいろと皆で相談しました。

地球は気の遠くなるような離れた所にありましたので、形を作って行く事は出来ませんでしたが、イシキだけなら瞬時に地球に届く事が出来ます。それでイシキだけで地球の近くまで行き、地球の上に来たら形を作ろうと思いましたが、ふわりふわりと降りなければ形が壊れる事も知っていました。そして降りた後は自由に動けるように、自分の分身を作ろうと思いました。

この結果、射手座のモノたちはクラゲのような形で降りてくることになり、そのお腹の中で渦巻きを作ることによって、人間のような形や仕事ができる手だけのロボットの巨人を自分たちの分身として作りました。

なぜそのようにイシキが思った通りの形に出来るかというと、射手座のモノたちは宇宙に充満している小さな“原子“たちと会話ができたからです。人間はまだ知りませんが、小さな原子にもイシキはあるので、その原子のイシキにお願いをして希望の形になってもらったのです。

射手座のモノたちはまずどろどろの地球を固めようと思い、集団で超高温の地球に降りてきて、一気に“珪素”というものになり地球を固めました。射手座のモノたちは岩になってもイシキは残っていて、宇宙の大元に頼まれたこと、すなわち地球を宇宙一すばらしい星で、希望の星にするという事を地球に話してあげました。

地球はこれまで誰も話しかけてくれなかったので、とてもうれしく思いました。宇宙の大元は地球の周りの星達に、地球を宇宙一すばらしい星で希望の星にするために応援をしてほしいと頼みました。星たちは喜んで協力すると言い、水星は雨を降らして地球を冷やし、土星は作物を作る土を作ってくれて、木星は木

や植物を、名のない星たちはあらゆる生き物を地球に送り込みました。

空にある星や見えない星達は“空のモノ”といい、射手座のモノと同じように、原子たちに“このような形や働きをするモノになってほしい”と頼むと、原子たちは地球に降りてきて、言われたとおりの形となり地球上にあらわれるのです。

そのようにして空のモノたちはあらゆる動物や植物、ごく小さなモノから大きなモノまで地球上に送り込んだので、地球はとてもにぎやかになりました。

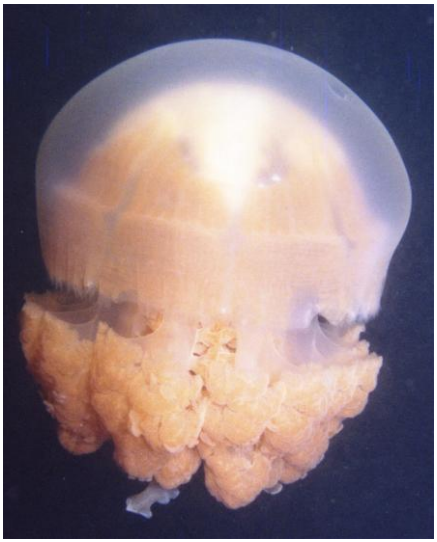
地球を固めてくれた射手座のモノの中に王様もいました。王様は地球が宇宙一のすばらしい星になったので、射手座のモノが地球のために働いた事を人間に知ってもらいたいと思っていました。それで自分の所（エルサレムの岩のドーム）に来た人に【私たちが地球を救ったので、こんなすばらしい地球になったんだよ】と話しかけました。その言葉をテレパシーでたまたま聞いた人はびっくりして、神様の声が聞こえたと思いました。その王様の声を聞いた人は何人もいて、自分こそ神様の声を聞いたと名乗り出ました。その名乗り出た人をそれぞれ信じた人が沢山集まり宗教が始まりましたが、それを空から見ていた人間を支配していた大きな星が、お互いを争わせるような言葉をテレパシーで人間に聞かせて、地球を争いの星にしてしまったのです。

一方、射手座の女王様も王様の後を追って地球に降りてきましたが、身体が固まる前に何としても自分達の事を小さな人間達に伝えたいと思いました。それで女王様は「私はただの岩山ではない、私は生きていたのでお話をしたい」と、自分の分身の巨人を作り、自分の身体から“口”の形をあらわす2枚のものを作るようにと巨人に言いました。それがご在所岳の“おばれ石”で、世界中に降りた射手座のモノたちは同じように、自分達のメッセージをあらわした形の岩をあちらこちらに作っておきました。それで、世界中には不思議な岩があるのです。そして長い年月が経って、山や岩がお話することに一部の人たちが気づき始め、これまで人間が知らなかったことをいろいろと教わるようになったのです。

小さなウイルスから大きな鯨までを地球に送り込んだ空のモノたちは、いわばそれらの親のようなものなので、それらが空のモノの指示を受けて行動するので、地球の自然界には不思議なことが起こるのです。それで、地球の自然は言葉ではあらわせないくらい、全てが完璧になっているのです。

第2章　射手座から降りたモノ

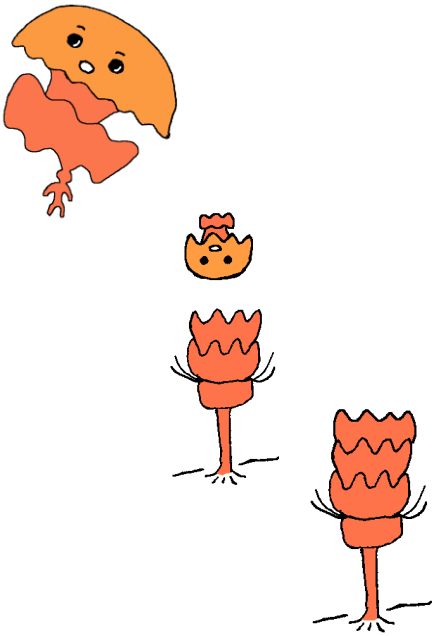
タコクラゲ
（パラオ共和国　マカラカル島）



「私たち*【柔らかなモノ】に似せたものをタコクラゲとして地球に降ろしました。最初のクラゲで針はありませんでした」

分身の作り方

「タコクラゲが増えるように、地球上で自分たちの分身の巨人を増やしました」



＊注：これ以降、射手座のモノである【柔らかなモノ】をこの本の主人公の「私」という表現にします。



小島の群れ
（パラオ共和国　マカラカル島）

「そのまま降りただけでは、私たちが空から降りたことがわからないので、ひっくり返って降りて、足の部分を沢山の小島の群れにしました。私の身体と足の部分の間には隙間があったので、海の中でも鍾乳洞があるのです」

小島の中には水面と接する部分が侵食されて、クラゲのような形になっているものがあります。



半円の岩
（アメリカ　ユタ州）

「半円の形があちこちにあるのは、私たちが半円の形で降りてきたことをあらわしておきました」

この地方にある半円の岩は、道路沿いや、湖のそば、谷底など様々な場所で見ることができます。





鍋釣岩

（北海道　奥尻島）

「楕円形は私たちのふるさと射手座の星の形です。私たちは原子の形でイシキとして地球にやって来てから、しっかりとした形(柔らかく巨大な丸)になりました。この岩は柔らかいものにすでに硬くなっていたものを砕いて混ぜて、棒のようにして曲げて作りました。土台はもう一人の巨人が作ってくれました」

この岩は高さ１９．５ｍの巨大なものです。

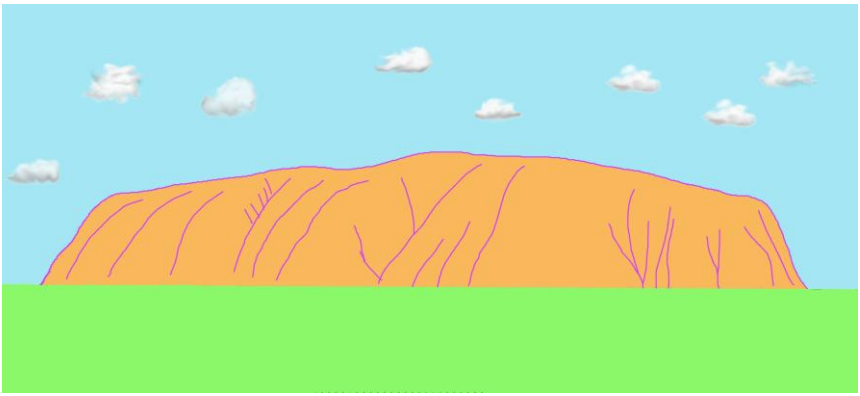
第3章　不思議な巨石



おばれ石
（三重県　ご在所岳）

「これはお話をする“口”のつもりで私が連れてきた巨人が作りました。けれどもあまりにも人間が小さすぎて、麓から見るとこの巨大な岩も白い点にしか見えないため、これまで長い間“口”とは気づいてくれませんでしたが、ようやく私たちに気づいてくれましたね」

２枚の岩の間は人が通れる幅があります。

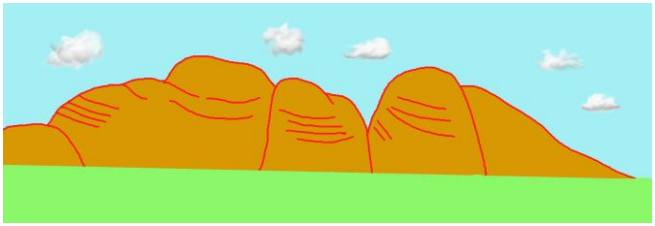


エアーズロック
（オーストラリア）

「この岩は、私が空から降りてきてそのまま固まって岩になった姿なのです。本当は私は地球に降りたくなかったので、身体が固まっていくのが悲しくて涙が出たので、岩の周りに水場があるのです」

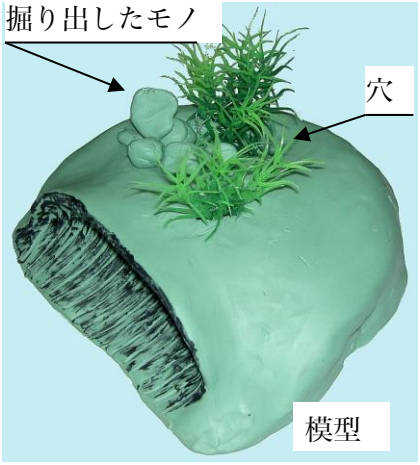
マウント・オルガ
（オーストラリア）

「私はエアーズロックに近づこうとして壊れました。私たちが地球に降りたことを人間に伝えるために、連れてきた巨人に変わった岩を作らせたり、岩絵を描くように人間に教えました」

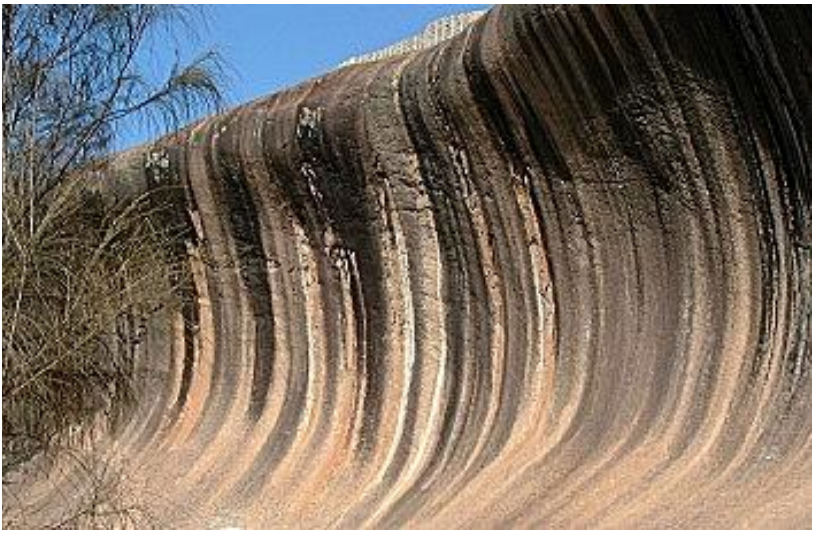


ウエーブロック
（オーストラリア）

「台風の波は柔らかいモノのイシキの現れだということを、このような大波の形にして残しました（下）。私は地球に降りてきた時に柔らかい身体を平らにして、連れてきた巨人に身体の一部を取り出してもらい大きな穴を開けました。穴の横にある岩は取り出したものが硬い岩になりましたが、掘った穴は長い間に林になっていきました（上、中）」









アンテロープ・キャニオン
（アメリカ　ユタ州）

「小さな人間が赤ちゃんを産みだすところを形に残しておきました。柔らかいうちに、層に穴を開けながら重ねていきました。このような形にしておかないと、人間は水で削られたと思うからです」

上の写真の光の玉はイシキが形であらわれたものです。





アーチーズ国立公園
（アメリカ　ユタ州）

「これは、射手座から来たモノの中に３人の王女がいたことをあらわしています。世界の各地に、この３人をあらわす岩を作っておきました」

アーチーズ国立公園は、アメリカのグランドサークル（パウエル湖を中心とする半径２３０Ｋｍにおよぶ国立公園群で、ザイオン、ブライスキャニオン、アンテロープ、グランドキャニオン、モニュメントバレーなどの有名な国立公園が含まれ、いずれの公園もスケールを超えた奇岩列石が立ち並んでいます）の一角にあります。



ホースシューベンド
（アメリカ　アリゾナ州）

「川は水が流れて自然に出来たと人間は思い、決して巨人が作ったとは思わないことがわかっていたので、たくさんの柔らかいものが地面を覆い尽くしていた所に、わざと極端なU字のカーブをつけました」

学説どおりの水で削られて出来た川ならば、岩は滑らかになるはずですがそうではなく、ごつごつと鋭角です。また普段は水量も驚くほど少ないです。

アーチーズ国立公園内のアーチ形の岩
（アメリカ　ユタ州）

アーチーズ国立公園は広さが２９４平方Ｋｍ（東京２３区の半分）あり、１５００ものアーチ型の岩を始めとして、想像を絶するほど多くの巨大な岩の芸術作品を見ることが出来ます。

「私たちがアーチをなぜが作ったかというと、人間は全ての岩が自然に出来たと思い、私たちがいた事に気づきません。それで自然には出来ない形を作っておいたのです。私たちが空から降りてくる時には丸く見え、その中に巨人を入れてきたので、それがわかるようにこの形にしました。
この場所は、アーチをたくさん作ると共に、巨人の王国のつもりで作りました」

【トンネルアーチ】

「巨人の目をあらわしました。いつでも人間を見ていますという意味で作りました」



【番兵の岩】



「ここは城壁で囲まれた私たちの巨人の王国を守る番兵のつもりで作りました。城壁の土台はブロックを並べたようにしっかりと作りました」

【パインツリーアーチ】



「巨人の王国にふさわしい巨大な門を作りました」

【トリプルアーチ】

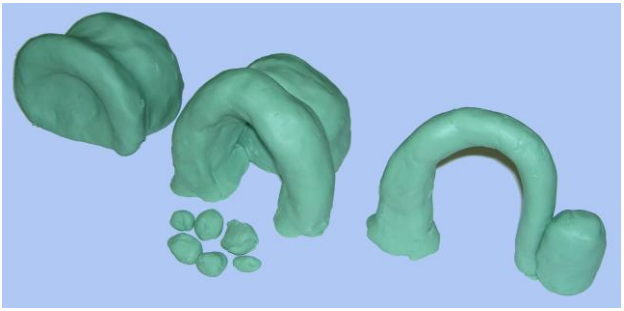


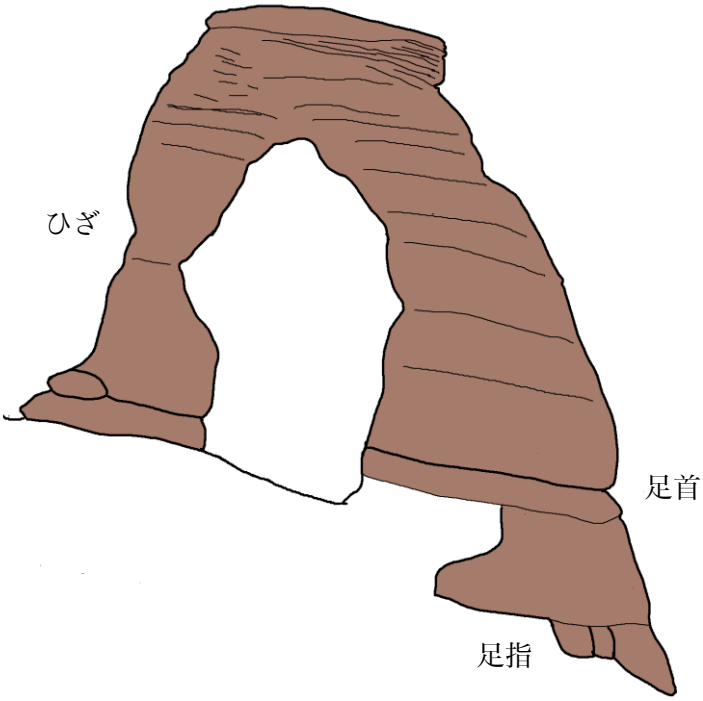
「3人の巨人を連れてきたものもいた事をあらわしました」

【アーチの作り方】

「岩を半円状にしていき、アーチの部分だけはしっかりと太くして、余分な部分は取り除いて形を整えました。また、やわらかいものを棒状にして曲げて作る作り方では、岩が倒れそうになったので支えを置いておきました」

グランドサークル内では、下の写真のような岩をあちらこちらで見つけることができます。





【デリケートアーチ】

「ごらんのとおり足の形をしているでしょう。私には足がなく移動がとても困難でしたので、足は必要と思い作りました。巨人には足はありましたが、関節がなく休むことができなかったので、人間には関節を作ってもらおうと思いました。人間が足と気づくまでに壊されると困ると思い、荒野で遠くまで歩いて行かないと見ることが出来ない所に作った岩です」

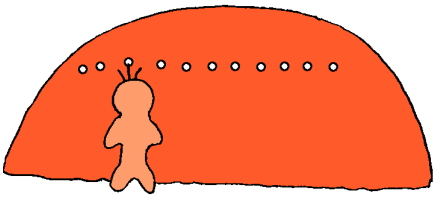
デリケートアーチの前向きのイラストです。高さは１３．７ｍあり、足首と足指らしきものが作られています。表紙の写真はこれを裏側から撮ったものです。



穴の開いた岩
（アメリカ　ユタ州）

草木の生えていない岩には沢山の大小の穴が並んで空いているものが、度々見うけられました。

「私には沢山の穴が開いていて、その穴から栄養のあるお乳を出しました。巨人は頭の後ろについている吸い口をその穴に差し込んでお乳を飲んでいました。また、その穴から出た汁が固まったのが、同じような大きさの丸い石になりました」





丸い石

あらゆる所で見られる同じような大きさの小石は、柔らかくて巨大なモノの穴から出た汁が固まったモノで、穴の大きさがいろいろなので、大小さまざまな石があるのです。

これまで丸い石は水流で削られ丸くなったと言われていますが、川の上流や山の山頂に近い土の中にでも沢山埋まっているのを見ると、水流の力だけで丸くなったとは思えないのです。

「世界各国で見られる完璧な球形の石は、お乳を乾かした布のようなモノで、柔らかいうちにおにぎりを作るようにしてきれいな丸にしました」



お供え物
（アメリカ　ユタ州）

アメリカのグランドサークル（国立公園の集合体）にはあちこちに、高い台の上に白い平べったいお餅のようなモノを乗せた石塔などがあります。

「白い岩はお乳の固まったものです。巨人はお乳を飲んでいたことを人間に知らせるために、わざわざわかるように作ったのです。巨人はテレパシーで話し、遠く離れた日本では“鏡餅”としてお供えをするようになったのです」



ピラミッド
（エジプト）

「やわらかいモノを四角いおにぎりのように作り、積み重ねていきました。途中まで積み重ね、形がきちんとなっているか確かめ、部屋を作りました。そしてそこに物入れ(王の間の玄室にある巨人の指輪入れ)を作り置いておきました。
柔らかいうちに積み重ねるので、剃刀の歯も入らないほどぴったりと密着ししたのです。
最後にしっかりと押さえたり撫でたりして形を整えたので、表面はつるつるになり、かつては光り輝いていたのです。特にギザのピラミッドの頂上は何度もしっかりとおさえたので密着し、今もしっかりと形が残っているのです。通路はオベリスク(巨人のエネルギーの刀)を差し込んで作りました」



タロコ渓谷
（台湾）

「小さな島にとても沢山の柔らかいモノが降りたので、それらは積み重なって押しつぶされ、下になったモノはとても硬い大理石に変わりました。けれども、そのままでは柔らかいモノが沢山押しつぶされた事がわからないので、まだ柔らかいうちに巨人がその指で一生懸命掘り出し川を作り、下のモノが大理石に変わったことがわかるようにしました。掘り出したモノは上に上にと積んでいきましたので高い絶壁の岩山になりました」

この渓谷の谷底は粘土細工のような大理石で出来ています。

フィヨルド
（ニュージーランド）

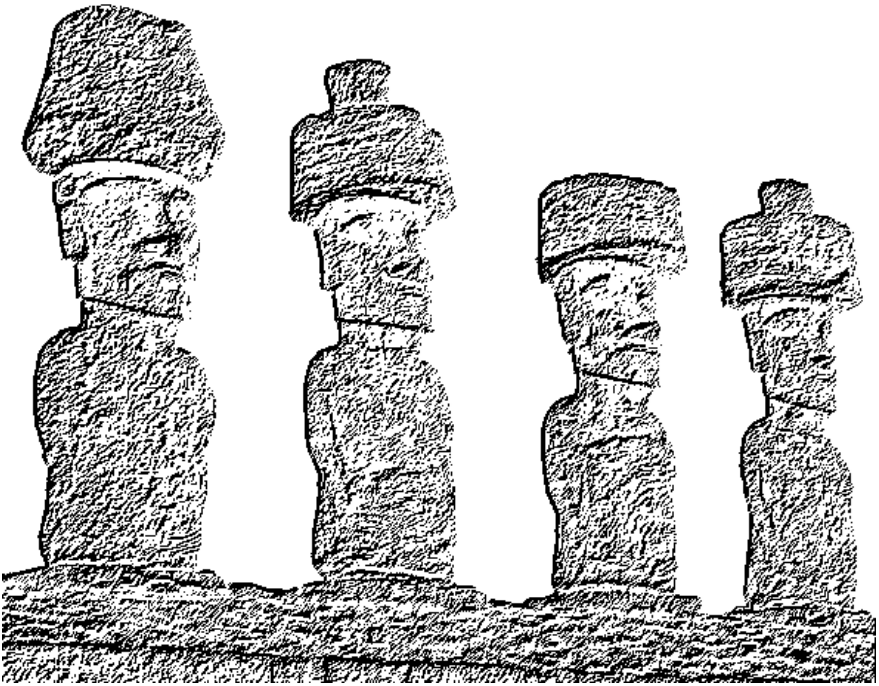
「未来に人間が住むことがわかり、冷たい風を防ぐために、巨人は一生懸命高い壁を作りました。人間は氷河に削られて出来たと思うことがわかっていたので、海の下深く一気に３００ｍまで削り取っておいたのです。作るのにとても大変で、私が死んだ後の事まで考えなかったので、あまり作物が出来ない土地になりました」



リーセフィヨルド
（フィンランド）



「この形は氷河で削られて自然にはならないことを、高さ６００ｍの巨大なテーブル状の岩にして、私たちが作った事を証拠として作っておいたのです」



イースター島

（チリ）

「モアイ像がなぜ遠くの空を見ているかと言うと、私達は遠い空から来たことを知らせているのです。頭の帽子は“脳”が大切だという事を知らせました。巨人が私達の柔らかい身体から像を作りました。しかし、親である私達が死んだために食べるものが無くなり、像を作りかけて巨人は死にましたが、巨人には骨がなかったので土になり形は残らなかったのです」

イースター島は南海の孤島で、柔らかいものから作られたと思われる数十トンの重さの巨大な像が、作りかけのものを含めてたくさんありま

ストーンサークル
（秋田県、北海道）



石を並べて丸い形にしたストーンサークルが日本、アメリカ、イギリス、前述のイースター島など世界中にあります。

「私たちは食べ物を作り出すことが出来て、それを人間に与えていたので、人間達は石で丸かった私達の形をまねして作り、食べ物を与えてくださいと拝んでいたのです。私たちが死んだのち山や岩になったので、山や岩を神と拝む習慣が出来たのです」

後年の権力者は自分の都合のよい神などを作り、これを壊していったので、あまり多くは残されていません。



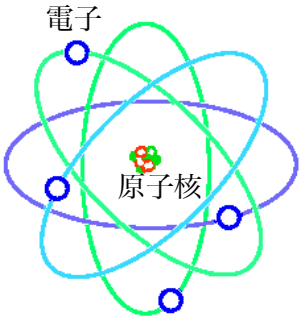
巨人は人間に似た形をしていたようですが、人間ほどには器用に仕事を出来ませんでした。けれども、指で粘土細工のように一生懸命変わった形のものを作りました。そして、それらが長い年月の間に完全に固まって不思議な形の岩として残りました。巨人には指紋がなかったために、巨人が指でそれらを作ったことを人間が気づいてくれない事がわかったので、人間には指紋を作ったそうです。



第4章　原子の変化

知らされた情報で驚いたものに、“原子にイシキがある”ということでした。その証拠は何かというと、原子核の周りを電子は高速でまわっていますが、それは原子核が電子に「私の周りをまわってね」とイシキが頼むから回ると言うことでした。

勝手に回っていると思えばそれまでですが、水の結晶の模様が同じ模様がないと言うことなどでも、原子のイシキを感じされられますが、いろいろな岩を見てさらにその思いを感じさせられました。





バランスロック
（アメリカ　ユタ州）

「自然に岩が取り残されて出来たのであれば、とっくの昔に風などで倒されているでしょう。人間にはこのバランスを保つ岩は造ることが出来ないことを知らせているのです。なぜバランスを保つことが出来るかというと、私が岩の原子にバランスを保つようにと頼んだので、原子はがんばって倒れずにいるのです」

ここだけでなく日本、オーストラリアなどにも、倒れそうで倒れない、バランスをうまくとった、とても自然に出来たとは思えない岩があります。



グランドキャニオン国立公園
（アメリカ　アリゾナ州）

「私達は遅れて降りてきましたが、そのまま平らになり、自分の身体を大きな溝にして深い渓谷を作ろうと思うことで、身体の原子は変化していきました」

長い年月かかって水流で削られて渓谷が出来たと言われていますが、乾燥地帯で驚くほど水量は少なく、崖は削られたのであれば滑らかなはずが、そのような岩はなく、ピラミッド、扇型など変化に富んだ岩が多いのです。また、平地が突然陥没して渓谷とつながったり、水の流れない高い位置の陥没帯もあります。



ブライスキャニオン国立公園
（アメリカ　ユタ州）

「未来を見る事ができたので、将来中世のヨーロッパの女性やお城がこのようになることをあらわしました。その形を私の身体の原子に真似て欲しいとお願いしたので、このような形になったのです」

この公園内は何Ｋｍにも渡って、写真のような尖塔（せんとう）が続きます。



柱状摂理

（北海道　江差町　鮪（しび）の岬）



「私の身体が固まる前に、私が意識を持っていたことを人間達に知って欲しくて、原子に私の希望の形になってもらったのです。

それは未来に人間達は家を作る事がわかっていたのと、家の中で薪を燃やす事がわかったので、柱と薪の形になってもらったのです」





アンモナイトの化石
（北海道　三笠市）

「昔、昔、大昔そのまたずっと大昔、宇宙は真っ暗闇でした。“宇宙の大元”はたった一人でさみしくて、ぐるぐると渦巻きを作っていました。するととてもきれいな光ができ、その光が星になりました。宇宙の大元はうれしくなって、次々と星を作りました」　【ホシ物語】より

「宇宙の大元をあらわす生き物としてアンモナイトが最初に作られたのです。いろいろな生き物はソラにいる星などの意識の集合体が、エネルギーを出しあって地球に送り込んでいるのです」



忠類ナウマン象記念館

マンモスの化石
（北海道　忠類村）

「ソラのものが“象”を地球をあらわす動物として地球に降ろしました。丸い巨体＝地球、耳＝偏西風、鼻＝引力、牙＝地球の自転(ボートをこぐ櫂)をあらわしているのです」

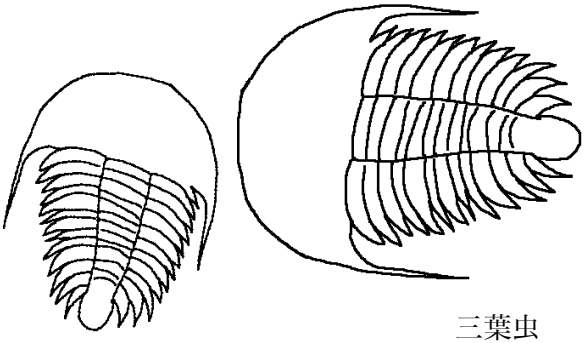


異常な化石

世界のあちこちでその地層の年代に合わない化石が出土しています。オーパーツ（場違いな遺物）とも呼ばれています。

例えば、数億年前に生きていたといわれる三葉虫の化石が発掘された地層から、その三葉虫を踏み潰した靴跡のような化石が出ているそうです。その靴跡には、はっきりと糸の縫い跡や等間隔の針穴の跡まであるそうです。数億年前に三葉虫と靴を作れるような人間が共存していたのでしょうか？

これは、年代に合わない化石などに、今の年代測定を不満とするソラのモノがエネルギーを与え、一気に化石にしたり、土に異常な変化を起こさせるので、いわゆるオーパーツの出現となるのです。



三葉虫

第5章　岩絵や地上絵

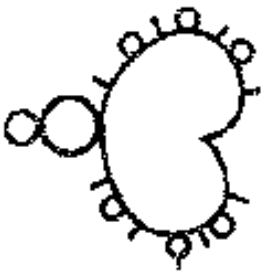
岩絵や地上絵は巨人が描いたと思われる巨大なものや、今は人間がとても住めないような所に描かれたものなどがあります。いずれもいつ頃描かれたか分からないというものがほとんどです。

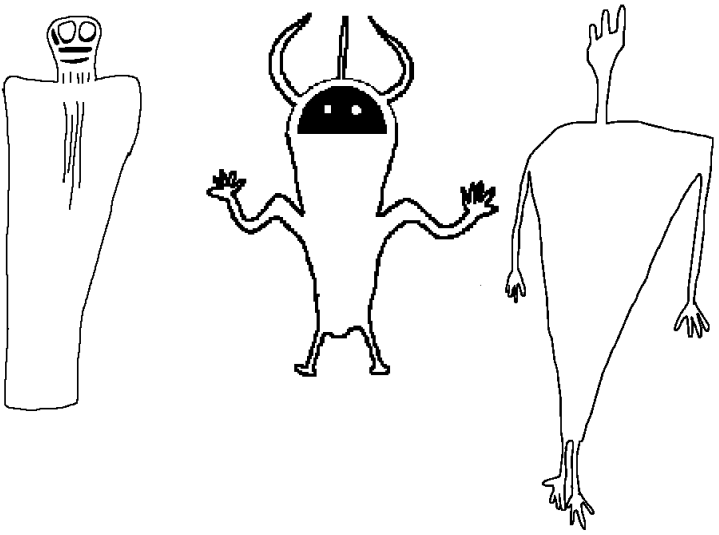
真っ暗な洞窟の奥深くに描かれたものは、描かれたときはそこは洞窟ではなく、描かれた後で巨人がそこをふさいだと知らされています。また、人間がとても登れない所に描かれているのは、巨人の手のひらに乗せられて描いたとも知らされています。

この本では、岩絵をイラストにして分かりやすくしました。

また、岩が柔らかかったこととは関係ないと思われるでしょうが、そのことをあらわしたものが穀物模様（ミステリーサークル・クロップサークル）で描かれています。これまで地上に現れた模様は数千におよぶと言われています。私達が受けた２３０個の模様の説明はこの情報と一致します。その調和の取れた完璧な穀物模様を、人間に気付かれることなく一夜で出現させ、その模様の中には難解な数式が必要とされるものや、天文学者が宇宙に送ったサインに酷似しているものがあります。







【岩絵の特徴】

古代の岩絵の人型に巨人の様子が描かれています。その特徴は

1）口がなく目は二つ描かれている。

2）頭に2本または3本の線があるのは、最初は言葉ではなくテレパシーで会話をしていたので、普通の耳のようには描かなかったのです。3本のうちの真中の線は首の後ろにあり、柔らかいモノの穴から出てくるお乳を、口の代わりに飲む管をあらわしています。

3）手のない巨人もいました。

4）動物などが描かれているのは、人間にこのような動物がいるので捕まえて食べるように教えるために描かせました。人間ともテレパシーで会話したり、ビジョンで教えました。

5）手形の絵や腕を描いた岩絵は、巨人が手で作ったという事をあらわしています。

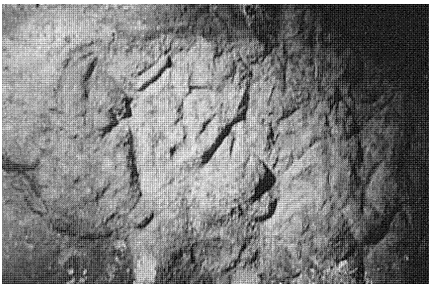
フゴッペ洞窟
（北海道　余市町）



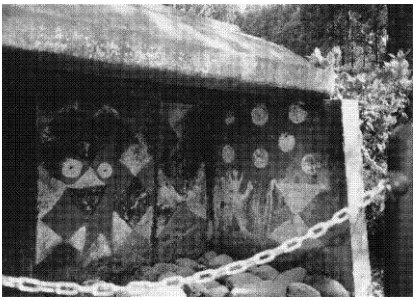


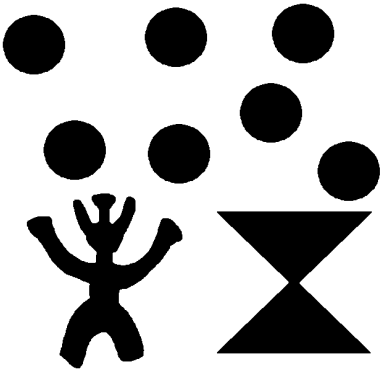
比翼のようなモノは頭のアンテナのようなもので、テレパシーの言葉を受けていました。

そのため、耳が異常に大きく描かれたものもあります。



チブサン古墳
（熊本県　山鹿市）





３本の角を生やした人物は巨人をあらわしています。その上の７つの円紋は柔らかなモノがソラから降りてくる時の様子を描きました。また、横の三角はソラから降りてくるものと地上の人間が一緒になることをあらわしています。

泉先洞窟
（福島県　泉先村）

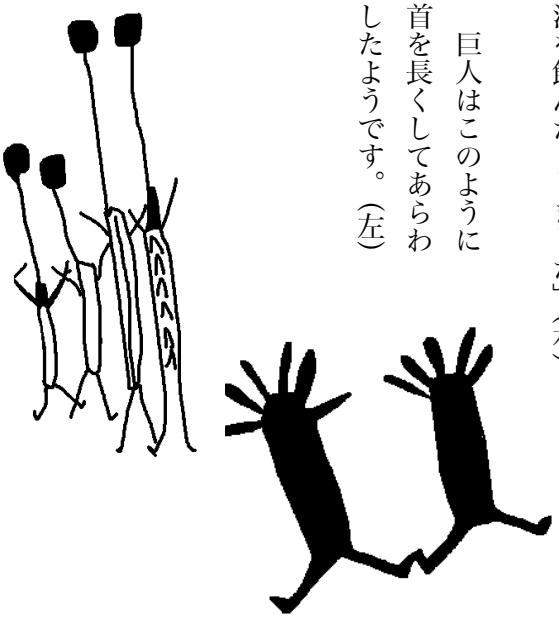
渦巻きが上に描かれてそれを人間が手をつないで見ています。柔らかなモノの穴の中は激しく渦巻いていて、その渦巻きから巨人が出て来たことをあらわしています。

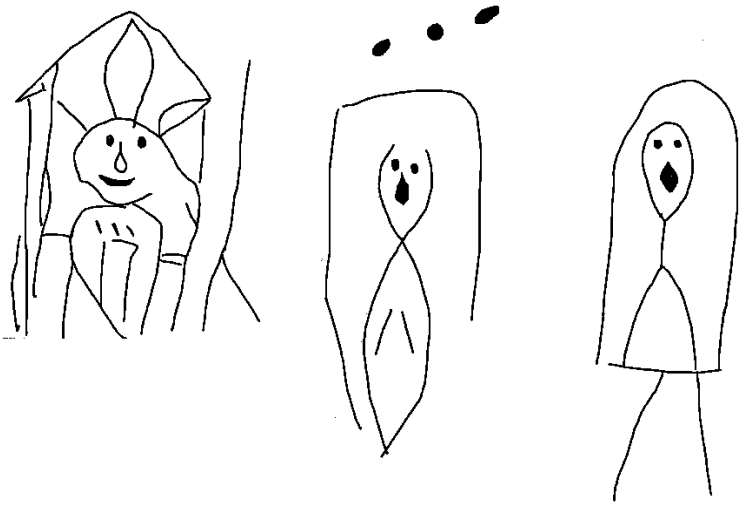


セラ・ダ・カピバラ国立公園
（ブラジル）

「巨人の分身をあらわします。山を作る仕事をしました。頭のアンテナは、テレパシーを受けたりお汁を飲んだりしました」（右）

巨人はこのように首を長くしてあらわしたようです。（左）





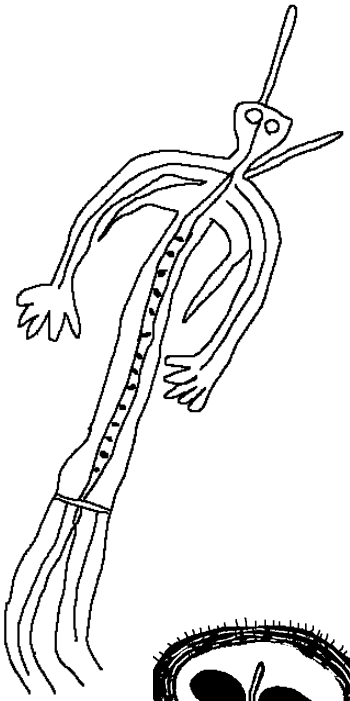
深田谷横穴古墳
（島根県　出雲市）

身体の周りに膜のようなモノが描いてあるのは、柔らかなモノの中に入って降りてきたことをあらわしています。口のように見えるのは、口ではなく鼻をあらわし、人間の匂いを感じるためのものでした。人間のために仕事をした巨人です。ここでも頭に3本の線がある人物の絵があります。

大きな耳と汁を吸う管が、後年“鬼”の角として変形して伝えられ、後年自分達にとって都合の悪い存在として権力者により悪者として扱われ、トラのパンツなどはかされました。鬼の金棒は巨人がエネルギーの刀として与えられていたものを、やはり悪者の道具にされました。

カカドゥー国立公園の岩絵
（オーストラリア）

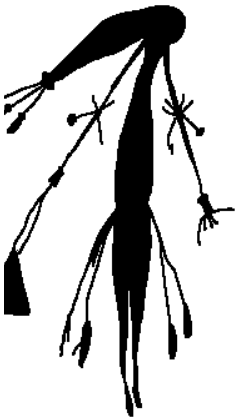
柔らかいモノの穴から出てくるお乳を、口の代わりに飲む管が描かれています（上）。栄養が身体の中を通って下に行く様子を、人間にビジョンを見せて教えました。真中の管はお汁を受ける管でいわば食道のような働きをしていて、内臓まで描いてあるのもあります。





オーストラリアの伝説に出てくるワンジナは、人間の姿をしていますが、大きさは大人の男性の3倍はあり、目と鼻があるが口はなく、丸い頭と放射状の模様で、雨や雲、雷と関係するとされ、怒ると暴風や洪水、落雷をもたらし、地形を作ったとも言われています（中）。このような巨人伝説は世界中にあり、山や川を作ったというストーリーがあります。

また、原住民のアボリジニとは明らかに体型の異なる人物壁画もあり（下）、未来に来る白人をビジョンで見せ描かせたのです。

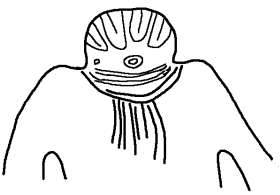


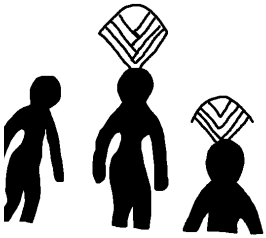
タッシリ・ナジェールの岩絵
（アフリカ　アルジェリア）

暑い砂漠の中にあり、周辺には人は住んでいません。

「上の岩絵は私達の子供で巨人ではありません。私達は人間にいろいろな知恵を授けることが出来る脳を持っていたということをあらわします。テレパシーでは分かりにくかったので、言葉を話す口が必要だと思ったのです」

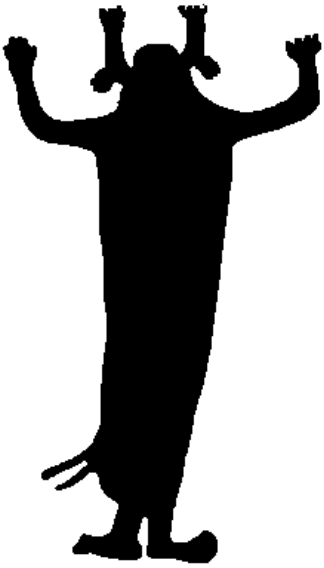
下の岩絵はテレパシーで会話をするために、頭に三角のアンテナをつけている巨人もいたことをあらわしています。





サンフランシスコ山地の洞窟の岩絵
（メキシコ）

カリフォルニア湾と太平洋にはさまれたバハカリフォルニア半島のブスカイノ砂漠には、現在まで４００の地点で洞窟壁画が発見されているそうです。そのうちのひとつは、耳が強調されています。伝説によれば、巨人によって描かれたものだと言われています。

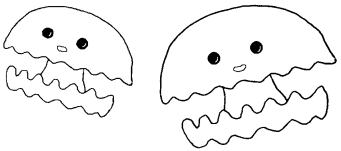




ラビーシャ村の岩絵
（ブルガリア）

巨人や耳人が描かれています。普通の人間の形も描かれていますが、側頭部に大きな湾曲をしたものが描かれているのは、テレパシーを受ける器官と思われます。

ハシゴのような形のものは、手をつないで降りてきた大きな柔らかいモノ達で、連山や巨人王国の塀のような長い岩になりました。

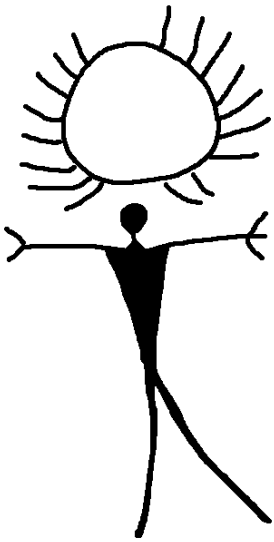




バルカモニカの壁画と岩絵
（北イタリア　南アルプス）

ここも険しい山の中にあります。頭蓋骨のようなものの中に巨人の脳が描いてあり、巨人の脳が小さかったことをあらわしています。山を作るのに便利なように、ここの巨人の手は大きな三角にしました。

左の岩絵は太陽と人ではなく、柔らかくて大きなものと連れて来られた巨人をあらわしています。



地上絵の特徴

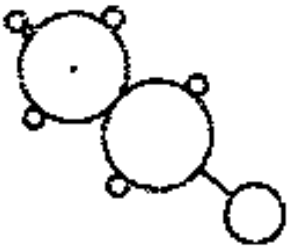
いつ描かれたか定かでないほど古くからあります。人間の住めないような厳しい環境にあり、それで破壊されずに残りました。

地上に描かれた図は人間の目では何が描かれているかわからないほど巨大なものが多く、ナスカの地上絵は飛行機や宇宙衛星から見て初めて発見されたものもあり、中には５０ｋｍにも及ぶ大きな模様もあり、人間では到底作る事はできません。大きなものは山や谷を越えて作られていますし、人型の地上絵は山の斜面に大きく描かれています。

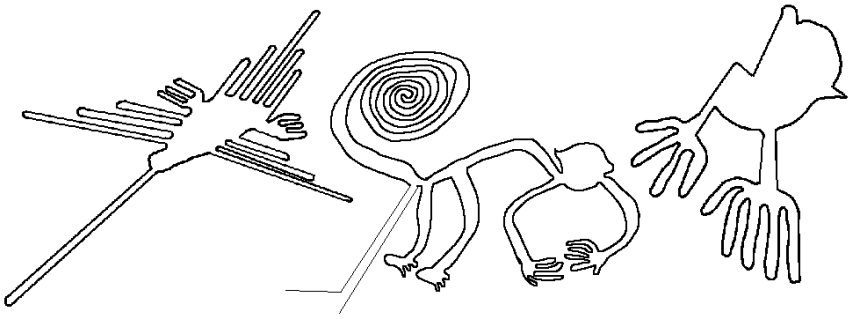


穀物模様（ミステリーサークル・クロップサークル）

射手座から降りたモノをあらわしたのもあります。より詳しい説明は「星からのメッセージ」参照。







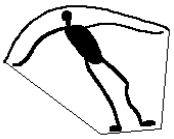
ナスカの地上絵
（南アメリカ　チリ）

「手」　手だけの巨人がいて、仕事をしました。右は潜在意識、左手は顕在意識をあらわします。右手が5本で左手が4本と言う意味は、人間のほとんどは潜在意識を認めない事をあらわしています。

「猿」　尻尾が渦巻いて長いのは、渦巻き(宇宙)からの操作で人間は猿から進化した事をあらわし、尻尾の部分が脳に行ったことをあらわしました。

「ハチドリ」　ハチドリは蜜を長いくちばしで吸いますが、巨人も首の後ろの管で柔らかくて大きなモノからお乳を吸い取る事を知らせました。
小さく土器などに描かれた同じ模様があるのは、巨人が小さな人間を手の平に乗せて、地上絵の上から見せたり、ビジョンで見せて同じ模様を描くように伝えました。そのように高い所から見ることが出来た者が“鳥人間”としてあちこちに描かれています。

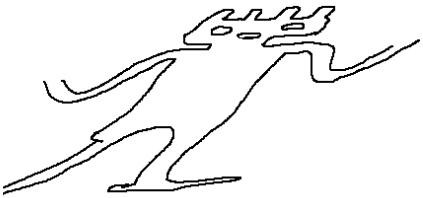
ブライスの地上絵
（アメリカ　カリフォルニア州）



６０ｍの巨人と少し離れた所に小さな人間が地上に描かれています。その他５本の長い線が描かれたものがありますが、それは人間の指をあらわしました。

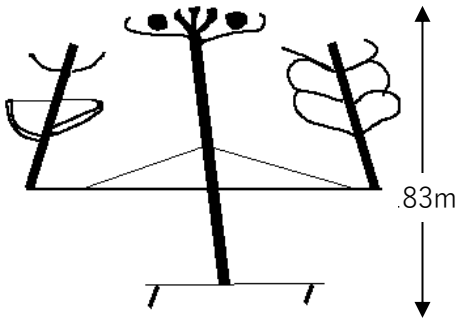
アアタカマの巨人の地上絵
（チリ）

岩山の斜面に高さ８０ｍの大きさで描かれており、大きな目と口と耳をあらわしています。



バラカス半島の地上絵
（ペルー）

１８３ｍにも及ぶ燭台（カンデラブラ）が砂地に描かれています。模様の意味は右側は3つ、左側が2つの半円が描かれていますが、指と同じ意味で顕在意識の方は潜在意識を認めていないという事です。



まとめ

人間がこれまでの歴史について考え始めるようになって経過した時間よりも、はるかに長い間地球の歴史は続いていて、人間がこれまで学び知ってきたことは、地球の出来事のほんの少しの年代だけです。私たちが知らされた情報は、想像をはるかに越えた内容で、一般の方には到底受け入れてもらえない内容でした。私たちも最初はこのような情報は半信半疑で、本当にそんなことはあっただろうかと、インターネットを駆使して検索を行い、あちらこちら実際に調べて回りました。その結果、いくら長い年月かかっても自然にできたとはどうしても思えない形や、明らかに目的を持って作られたと思われる形の岩が沢山見つかりました。また、大きな巨人の指で粘土を扱ったような形のある岩を、日本はもちろん海外でもたくさん見つけることが出来ました。

岩を調べている過程で見つかったのですが、驚くべき不思議な岩絵が世界中にあることがわかりました。人間が住むにはとても条件の厳しい地域に、有史以前に描かれたと思われ、人間とは違う生き物と思われる岩絵が世界のあちらこちらにありました。また、有名なナスカの地上絵などは、小さな人間が描く事は到底不可能な巨大さですし、いつ描かれたか、なぜ消えずに残っているかもわからないままです。そして、現代の建築学でも建築不能と思われる建物が、何千年いや何万年もびくともしないで存在しています。

以上のことは“岩は柔らかかった”ということとは一見無関係のようですがとても大きな関係があり、知らされた情報を裏付ける作業を行うことが、この本を出版するきっかけになりました。

ただ、あくまでもこの情報が正しいかどうかのご判断は、皆様にお任せします。

付録(細胞の意識)

この情報で知らされる原子に意識があるということは、肉体を形成する細胞にも意識があるということを知らせています。病気のひとつの癌という字は【山＝岩山の口伝えを“病だれ”で隠す】という事をあらわしていると知らされました。「原子に意識がある」この事を知り、それを認めることにより、病気や宗教に関するだけでなく、これまでのあらゆる思い込みから開放され、新たな思いで暮らす事ができます。

最後に

世界中には、ただ不思議な形をしている岩、訳のわからない岩絵というだけで残されている多くのものがあります。これまで私たちは、射手座のモノや彼らが連れてきた巨人が、一生懸命訴えていた事に気付いていませんでした。このすばらしい地球の基礎を作り、小さな人間を守り教え、これまで見守ってくれた射手座のモノや宇宙の存在を認め感謝し、このかけがえの無い地球を大切にしていきたいと思います。

取材に際してご協力をいただいた方々には心より感謝を申し上げます。また、この本で取り上げたものの中には、実際には到底訪れて見ることが出来ないものが多くあります。たくさんの貴重な情報をインターネットや本で公開してくださっている方々や、それらの情報を知らせてくださった皆様に深く感謝いたします。

２００３年７月　著者

参考文献

縄文文明の謎と宇宙人遺跡（星光一著）学研
謎の巨石文明と古代日本　新人物往来社
RAINBOW　BRIDGE　KC Publications (USA)
GLEN CANYON - LAKE POWELL　KC Publications (USA)
Arches & Canyonlands　KC Publications (USA)
UTAH　Blackner Card & Souvenir Co.(USA)
STANDING　UP　COUNTRY　Rio Nuevo Publishers (USA)
LAKE　POWELL　COMPANION PRESS (USA)

写真提供

上野加恵
（６～７ページ：パラオ共和国　マカラカル島）

著者紹介

S・フミヒロ
電子工学を専攻し、LSI 回路設計の職業の傍ら、長年にわたり超古代遺跡の探求をする。北海道岩見沢市生まれ、現在札幌市在住
日本ペトログラフ協会員

シロキ カヨコ
元・看護婦、元・米国催眠協会公認ヒプノセラピスト
京都府綾部市星原町生まれ、現在札幌市在住
著書に「星からのメッセージ」「星からのメッセージ第２集」「ホシ物語」「ソラからの伝言」（すべてソラと星出版）がある
ホームページ http://sora.ishikami.jp

地球物語　～岩は柔らかかった～
二〇〇三年七月二十二日　初版第一刷発行

著者　S・フミヒロ
　　シロキ　カヨコ

発行者　白木 妙子
発行所　合資会社 ソラと星出版

ホームページ　http://book.ishikami.jp

印刷・製本

本書の内容の一部または全部を無断で複写複製（コピー）することは、
法律で定められた場合を除き、著作者および出版社の権利の侵害となります。

© S.FUMIHIRO/KAYOKO SIROKI 2003,Printed in Japan